

贈呈理由

(財)庭野平和財団(庭野日鑛総裁、庭野欽司郎理事長)は、「第22回庭野平和賞」をカトリックの神学者であり、「地球倫理財団」の会長を務めるハンス・キュング博士(76歳、ドイツ)に贈呈することを決定致しました。キュング博士は、諸宗教の対話・協力を貢献すると共に、平和の実現に向けて「地球倫理」を提唱したことで世界的に名を知られています。同賞は、世界125カ国、約1000人の識者に推薦を依頼し、「庭野平和賞委員会」(各国で宗教協力や平和活動に取り組む10人の宗教者によって構成)で厳正な審査を行い、決定したものであります。

キュング博士は、ローマ教皇庁立グレゴリアン大学で哲学、神学の修士号を取得後、司祭に就任。さらにパリのソルボンヌ大学とカトリック研究所で研究をつづけ、1957年、神学博士号を取得しました。1962年から65年まで開催された第二バチカン公会議では、教皇ヨハネ23世から公式アドバイザーに任命されています。また1960年から1996年まで、ドイツのチュービンゲン大学で神学部教授を務め、エキュメニカル(キリスト教諸教会間一致)運動の推進に力を注ぎました。さらには、アブラハムを共通の「信仰の父」とするキリスト教、ユダヤ教、イスラームのみならず、ヒンズー教や仏教なども視野に入れ、世界の諸宗教の類似性、共通性を研究し、著作やインターネット、マスコミなどを通じて、宗教の普遍的価値を論じてきました。その活動は、世界的に注目を浴び、「対話の神学への先駆者」「普遍宗教確立への先駆者」との評価を受けています。

『諸宗教の平和なくしては、諸国家間の平和はありえない。諸宗教間の対話なくしては、宗教間の平和はありえない』とキュング博士は明言します。人類は、自らの宗教の正当性のみを論じるのではなく、共通する責任を自覚しなければならない。神仏は、個々の人々が自我を超え、世界平和実現への手足となることを望んでおられる。敬虔な信仰を持つ人々は、確かに社会を変え、救う力を持っている。しかし、一つの宗教だけで人類が希求する世界平和をもたらすことはできない。だからこそ、諸宗教の対話・協力を欠くことはできない。そう確信するキュング博士は、カトリックの神学者でありながら、常に世界の諸宗教に敬意を払い、信仰の最も奥にある共通の倫理を見つめてきました。現在、WCRP(世界宗教者平和会議)国際委員会の共同会長としても、中心的な役割を果たしています。

こうした宗教の普遍的な倫理を、さらに現実化、具体化したものが、キュング博士の提唱する「地球倫理」であります。現在、世界はさまざまな課題を抱えています。暴力と戦争、迫害と差別、荒廃した生活、危機に瀕した地球環境……。『世界の苦悩を阻止するメカニズムの必要性が今ほど叫ばれる時代は、いまだかつてなかった。幸いにも、世界の諸宗教の教えには普遍的倫理がすでに存在する。これが道徳的基盤となれば、人々を絶望から救う方向性を示し、社会を混乱から遠ざけることができる』とキュング博士は指摘します。そして『地球倫理とは、一切の現存する宗教を超える一つに統合された地球宗教とか、一切の宗教の混合とかを意味しているのではない。地球倫理は、世界の諸宗教が、現在すでに持っているものを共に成し遂げようというもの』と位置づけています。

1993年9月、アメリカ・シカゴで開催された「万国宗教会議」の席上、キュング博士が草稿した「地球倫理宣言」が発表され、採択されました。『世界は苦悶している』という言葉で始まる「地球倫理宣言」は、諸宗教から見出した普遍的倫理を、象徴的に「四つの取り消し不能の教令」として示しています。「殺すな」「生命を尊重せよ」との教えは、社会的・政治的正義、非暴力の推進、自然環境保護、軍備の恒久撤廃などを導き出します。「盗むな」「正直に公正になせ」との教えからは、貧困の撲滅と公正な経済的秩序の必要性が強調されます。「嘘を言うな」「真実を話し、行え」からは、マスメディアや政治家などにあるべき説明責任の姿を促します。「性的不道徳をおかすな」「お互いに尊重し、愛せ」からは、男女間のパートナーシップ、結婚や家族のあり方が問い直されています。

『ここに義務的な価値、取り消し不能な規範および根本的な道徳的態度に関して、最低限の基本的な合意がなされた』とキュング博士は感慨をもって語っています。この「地球倫理宣言」は、宗教界のみならず、各界から大きな反響を呼びました。アメリカの大手新聞「USA Today」は、4000万の読者に向け、全ページを使って記事を掲載しました。また全世界で出版が進み、「地球倫理宣言」の検討会議、研究会なども各地で開催されています。将来的には、国連の地球倫理宣言に結実するのではないかと期待されています。

またキュング博士は、1998年、国連人権宣言50周年に発表された「人間の責任に関する世界宣言」の起草者も務めました。1997年には、元ドイツ大統領のバイツェッカー氏と共に国連事務総長から「賢人グループ」のメンバーに任命されています。1995年からは、ドイツの「地球倫理財団」の会

長に就任し、「地球倫理」の普及に向けた諸活動を精力的に展開しています。

混迷する現代世界の中で、人々の多くは、確固たる道しるべもなく、さまよ
い続けていると言われます。そうした中、諸宗教の持つ普遍的倫理を、世界
の、そして個々人の共通した道徳的基盤にしようとする試みは、人類の歴史
上、最も意味のある出来事の一つでありましょう。庭野平和財団は、こうした
キュング博士の本質的な宗教性、平和実現への情熱に深く敬意を表し、またこ
れまでの多大な功績を顕彰すると共に、さらに多くの同志が輩出されることを
念願して、ここに「第22回庭野平和賞」をお贈りするものであります。